

指導の狙い

付点音符ともとの音符の長さの関係を正しく図に表し、図が正しいわけを説明することができるようにする。

問題の概要

B② (2) 2分音符と付点2分音符の長さの関係を正しく表している図を選び、その図が正しいわけを書く。

学習指導要領における領域・内容

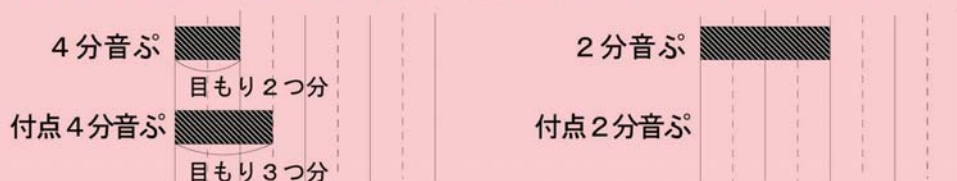
〔第5学年〕 A 数と計算(3)ア、イ (平成20年告示)

授業アイデア例

《音ふの長さのきまり》

付点音ふの長さは、もとの音ふの長さの1.5倍です。

4分音ふと付点4分音ふの長さの関係を図に表すと下のようになります。



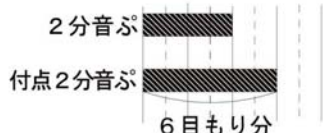
このきまりをもとに、2分音ふと付点2分音ふの長さの関係を上の図に表しましょう。

ア. 1目もり増やしました。



付点4分音ふは4分音ふより1目もり増えて3目もりなので、付点2分音ふも2分音ふより1目もり増えて5目もりになります。

イ. 2目もり増やしました。



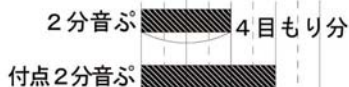
2分音ふは4目もりです。付点2分音ふは、その半分の2目もり増えて6目もりになります。

アとイのどちらの図が1.5倍の関係（もとの音ふと付点音ふの長さの関係を）を正しく表しているか、説明してみましょう。

2分音ふの長さは、4目もり。4目もりを1とすると、2倍は8目もり。1.5倍はその真ん中だから6目もりになります。



1.5倍の大きさはかけ算で求められるから、 $4 \times 1.5 = 6$ 。だから、付点2分音ふは6目もりになります。



もとの音ふの長さを1として考えることが大切なのですね。

2分音ふは4目もりを1と考え、その1.5倍を求めればいいのですね。だから、付点2分音ふは4目もりの半分の2目もり増えるのですね。

《主な学習内容・活動》

● 4分音符と付点4分音符の長さの関係を確認する。

● 付点2分音符の目盛りの長さを図に表す。

● 1.5倍の意味を図と対応させて考える。

留意点

- もとの音符の長さ、付点音符の長さ、もとの音符の2倍の長さを図に表すことにより、倍の関係を視覚的に捉えられるようにする。
- 表された図と与えられた条件の意味を関連付けながら説明することができるようにする。
- 基準量とその倍（幾つ分）に当たる大きさを具体的に表したり、対象となる量を基準量の幾つ分であるかを見付けたりする活動を低学年から意図的、継続的に行うようにする。